

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、
よりよい人間関係を築く力を育む特別活動の在り方
―自らの思いを大切に、自己実現できる児童を目指して―

日立市立櫛形小学校

1 はじめに

本校は、147年の歴史と伝統をもつ学校である。児童数は824人であり、特別支援学級を含む36学級（通級5教室含む）の大規模校である。住宅地が多いものの、自然豊かで、ビオトープなどの教育資源、スクールボランティアなどの地域の方々の協力体制も充実している。

2 実践事例

（1）子どもが主体の児童会活動

4学年以上の代表委員による代表委員会を計画的に行い、議題についての内容や方法を集団決定している。毎回「児童会だより」を発行して全学級・全職員に知らせ、共通理解を図り、次の2つの行事を全校で実施している。活動後は必ずふり返りを行い、次に生かせるように取り組んでいる。

ア 「あいさつで元気に」－あいさつ運動－

毎月の第2週に運営委員会で分担してあいさつ運動を行っている。児童は、のぼりを持ったり、看板を掲げたりしながら2つの校門に立ち、登校してくる児童に「おはようございます」と大きな声で声かけした。給食の時間には、児童が校内放送で「元気なあいさつにして、よりよい櫛形小学校にしていきましょう」と呼びかけた。あいさつ運動の活性化により、学校全体が明るい雰囲気になり、各学級での指導に生かすことができた。

イ 「元気に遊ぼう」－なかよしタイム－

毎学期、1・6年生、2・5年生、3・4年生で異学年交流班（なかよし班）を編成し、一緒に遊んで交流を深めている。遊びの内容は、高学年の4・5・6年生が主体となって考え、低学年の1・2・3年生が喜ぶような遊びをグループでよく話し合って決定している。学年の異なる友人との集団活動を通して、集団の一員としての所属感を深め、個性を伸長することができた。また、ふり返りには「とても楽しかった」などの記述が多く、学校生活を楽しくしようとする態度を高めることができた。

3 成果と課題

学校行事と児童会活動を関連させ、意図的・計画的に行うことで、全校児童に「よりよくいくっ子になりたい」「よりよい学級にしたい」「よりよい学校にしたい」という意識や態度を高めることができた。

今年度は、コロナ感染拡大防止の対策のため、多くの学校行事や児童会活動を行うことができなかった。さらに、昨年度末からの休校の影響で、1年間の活動のふり返りや、年間指導計画の見直しを十分に行うことができなかった。今後の状況や本校の実態に応じて年間指導計画の見直しと引き継ぎを行えるようにしたい。